

映像業界

中京テレビ放送株式会社

北折政樹さん

技術推進局 放送技術部 副部長

作業の効率化とともに省スペースを実現するLTOはデータの安全な長期保存には不可欠のシステムとなる。

今回、お話を伺った北折さんは、中京テレビで映像系のスイッチャー兼設備投資担当の業務をされています。設備投資では、編集システムやライブラリーの構築に注力されており、ライブラリーシステムとしてLTO導入を推進。

「現状の撮影用の録画は、報道系はビデオテープに、制作系はディスク（メモリー）に収めることが多いのです。

そうして録画した映像をサーバーに取り込み、ノンリニアで編集します。

一時保存はハードディスクを使い、長期保存用としてLTOを導入する仕組みを構築中です。北折さんはそのようにお話を始められました。

データ長期保管のため、省スペースとランニングコスト低減を図るシステムを。

これまで、データの長期保存用にはビデオテープを使っていましたが、現在、ライブラリー室に3万本以上のビデオテープが保管されていて、棚がいっぱいになりつつあります。そこで、長期保存用データをすべてLTOに移行して、スペース効率を上げるのが最大の狙いだそうです。

“ 今までは、長期保存用にビデオテープを使っていた為、VTRの世代交代があり、その都度、目視確認をしつつダビングする事が大変でした。また、通常の運用時でも保存した素材を利用する際には、保管棚から探す作業、貸し出しテープへのダビング作業が手間でした。その点、LTOだとメカにまかせられるのがいいと判断しました。スペース効率に加えて、トータルのランニングコストを抑えられるのも大きなメリットになると思います。 ”

北折さんはそうした視点で、3~4年前からデータの長期保存用としてLTOに注目され、いろいろと情報も集めておられたそうです。2016年の新社屋移転決定が契機となり、LTO導入のご決断に至りました。

“ LTOの導入に関しては、複数社のものを検討しました。結果的にはIBMのLTOシステムが一番使いやすく、コスト的にもリーズナブルだと判断して決めました。 ”

と北折さん。テープメディアとしても、磁性体の堅牢度など、富士フィルムのものに一番信頼性があると確信されたそうです。



データを使う場所での作業性向上をめざして。

中京テレビにおいて、番組用の基本的なデータの流れは次のようなものです。撮影データ(ビデオテープ or 光ディスク)をサーバーに落とし、そのサーバー上で編集チームが編集作業を行い、サブ・OA用搬入ビデオテープを作成しています。そのサブ・OA素材とOA番組として完成されたデータだけではなく再利用可能な素材を長期保存のライブラリーとしてのLTOに収めています。

長期保存データの二次利用の際はライブラリーから検索して、編集チームが作業するサーバーに送られます。

“ スポーツや旅行、料理関連など素材データを使う頻度はかなりあります。今後、すべてのデータをLTO化すれば、素材を再利用する際にビデオテープによるダビングではなく、編集サーバーに対して直接出力が可能となり、非常に省力化できて、とても使い勝手が良くなると期待しています。 ”



映像データを安全に長期保管し、効率的に再利用できる。

ビデオテープの場合は、そこからデータの二次利用、三次利用に大きな手間がかかります。現在は、まだすべての保存データをLTOに入れてはいないので、目覚ましい効果にまでは至らないようですが、すべてのデータをLTOに取り込み、システムが完成すれば、作業時間の短縮、人のランニングコストの低減は画期的なものになることでしょう。これまでのようにビデオテープで保存していると、例えば「桜の映像が欲しい」と編集チームからリクエストがあると、人手をかけて探し、様々な映像を用意しなければいけません。LTO化すれば、データを使う編集サイドでパソコン検索し、具体的なイメージを即座に見て選べるので、とても効率的になります。

ゆくゆくは長期保存だけではなく、一時的な保存もLTOにして、データ保存の安定性を高めたいとのこと。

“ ハードディスクもなくなることはないでしょうが、壊れる可能性があるので怖いですからね。 ”

停電対策だけがシリアスな？課題。

LTOシステムについての満足度はかなり高いとおっしゃる北折さん。あえて、不便を感じている点についてお聞きしました。

“ LTOの省電力性はいいと思います。ただ、停電の時に使えないのが困るくらいですかね。(笑)電気点検の時など、半日くらい動かなくなるので。もっとも、ハードディスクや、これまでのビデオテープにしても、停電時に使えないのは同じですけど……。 ”
それから、LTOにしてファイル管理できるようになったのは大きなメリットですが、大容量が簡単に保存できてしまうため、どこまで保存すべきかの判断をどうするか？など、若干、課題はあると思います。 ”

保存メディアとしてのLTOの優位性はますます強まる。

今後は、東京オリンピックに向けて映像の4K化も進展するものと思われます。データ容量がどんどん増加するので、保存メディアとしてLTOの最適性・優位性はますます強まることでしょう。

“ クラウドサービスがリーズナブルになれば、クラウドをメインライブラリーにして、バックアップをLTOにとっておくような併用スタイルに変化していくかもしれませんが、保存メディアがLTOに移行済みであれば、人手をかけずに変化に対応できていると思う。 ”

北折さんはそのようにお話を締めくくられました。



FUJIFILM
富士フイルム株式会社

記録メディア事業部
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3 TEL.03-6271-2081 FAX.03-6271-2185

「テープストレージの情報ポータルサイト」
www.tape-storage.net

テープストレージネットで、検索。

